

18	豊田	朝日丘中学校	サイトウ シンヤ 氏名 齊藤 慎也
----	----	--------	----------------------

分科会番号	19	分科会名	読書・学校図書館
-------	----	------	----------

研究題目 読書に親しみ、想像したことを文章で豊かに表現することができる生徒の育成

— 特別支援学級 「ショートショートづくり」 を通して —

1 主題設定の理由

SNSを通じてコミュニケーションを取る機会が多い今の時代の子どもたちには、非常に高い言語能力が求められている。その理由は、相手の表情や声色も分からない中で、文字だけを見て相手の意思を読み取り、文字だけで自分の気持ちを正確に伝えなければならないからである。そのような時代を生きる子どもたちに、国語科教員としてどのようなアプローチをするのがよいかと日々悩んでいた中で、昨年度、愛知県学校図書館研究大会にて田丸雅智氏のワークショップ「誰でも書けるって本当に？～ショートショートの書き方講座と、そのすすめ～」に参加した。田丸氏はショートショートについて、「アイデアと、それを活かした印象的な結末のある物語」「短くて不思議な物語」と定義している。その講座では、ショートショートづくりを通して「発想力」や「論理的思考力」「コミュニケーション力」「文章力」が磨かれることを教わった。「これだ」と思い、すぐに担任している特別支援学級の生徒たちとショートショートづくりを行ったが、誰も書くことができなかった。そこで、本学級の生徒がショートショートを書くための力として、「自由な想像をする発想力」と、その発想力をつけるための「語彙力」、想像したことを「文章で豊かに表現する構成力」の3つが必要であると考え、本主題を設定した。

2 めざす生徒像

主題の実現に向けて、めざす生徒像を次のように設定した。

- (1) 主体的に読書に親しみながら語彙を獲得する生徒
- (2) 想像したことを文章で豊かに表現することができる生徒

3 研究の仮説と手立て

仮説 豊かな読書体験の場を設定し、読書の楽しさを促進する活動を繰り返し設定すれば、主体的に読書に親しみながら語彙を獲得し、想像したことを文章で豊かに表現することができるだろう。

手立て

手立て①：興味・関心のあるジャンルの本の提供

ショートショートづくりの軸となる「不思議な言葉」を想像する発想力を付けるために、たくさん本に触れることが必要だと考えた。そのために、生徒たちが自由に本を読むことができる学級文庫を設置する。選書のために、生徒から興味のあるジャンルの本を個別に聞き取ったり、保護者

から「生徒の幼少期に読み聞かせをした思い出のある絵本」を聞き取ったりする。また、本学級生徒の実態に合った選書を行うため、学校図書館司書に協力を依頼する。

手立て②：意図的な選書をした読み聞かせ

学校図書館司書や教員により、話の起承転結が分かりやすい本や、不思議な展開の本を意図的に選書し、読み聞かせを行う。それにより物語の面白さを構成する要素について関心を持ち、想像したショートショートストーリーを文章で豊かに表現することができるようになることを狙いとする。

手立て③：読書の木づくりの実施

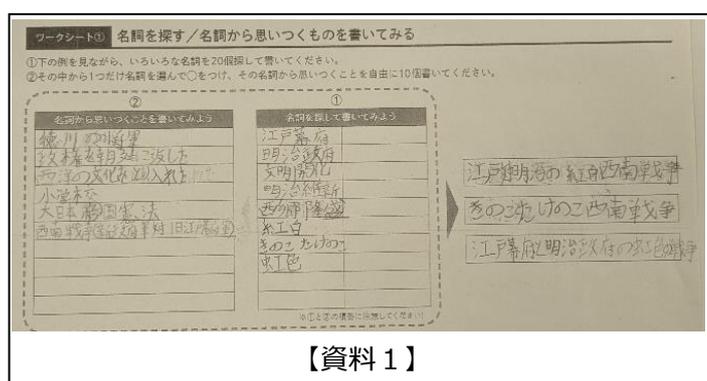
経験した読書体験やショートショートづくりの振り返りを視覚化して、充実感や達成感を得ながら学びを蓄積できるように「読書の木づくり」を行う。読んだ本のどこが面白かったのか、読んでどのような気持ちになったのかを葉っぱの形をしたカードに書き、大きな木のイラストにみんなで貼る。その際、様々な語句を使って新しい語彙が獲得できるように語彙一覧表を用意する。

4 抽出生徒について

生徒Aの実態（自閉症・情緒障がい）	願う生徒の姿
真面目で素直な性格だが、自由な思考で想像する柔らかさ・創造性は低い。日常的に友達と関わり合う様子があまり見られない。また、本を読むことは嫌いではないが、学校で読書をする事への関心は低く、休み時間に図書館に行ったり、本を読んだりする姿は見られない。	絵本の読み聞かせや読書で触れた本のストーリーや設定を参考にして、自由に想像をふくらませることを楽しんでほしい。本や語彙一覧表から言葉への関心を高め、様々な語彙を使って表現することができるようになってほしい。

5 実践と考察

今回、国語科の授業で「どうすれば面白いショートショートが作れるだろうか」という課題を設定して、「ショートショートづくり」を行った。本学級の生徒はショートショートがどのようなものかを知らないため、最初に例として複数の作品を提示した。次に、ショートショートづくりの軸となる不思議



な言葉づくりを行った【資料1】。「名詞を探して書いてみよう」で生徒Aは、「江戸幕府」「明治政府」「文明開化」「明治維新」「西郷隆盛」など、興味のある歴史に関する名詞が多く出た。その名詞から思いつく言葉と、他の名詞をつなげて「江戸対明治の紅白西南戦争」「きのこたけのこ西南戦争」「江戸幕府と明治政府の虹色戦争」という3つの不思議な言葉をつくった。3つとも「戦争」という単語が含まれているように、生徒Aの言葉選びには偏りがあり、自由で柔軟な発想をしているとは言い難い。そこ

で、生徒Aが自由な発想をしたり、豊かな語彙を獲得したりするためには、たくさんの豊かな読書体験が必要だと考えた。

(1) 興味・関心のあるジャンルの本の提供 (手立て①)

まず、生徒たちが自由に本を読むことができるように、教室に学級文庫を設置した【写真1】。選書としてまず、生徒に、好きな本について調査し、教師がその本や同じジャンルの本を本棚に並べた。その後、その本や同じジャンルの本が本棚に追加されると喜んで手に取っていた。調査の際に、生徒Aは好きな本としてキング牧師の伝記を挙げていた。



【写真1】

次に、学校図書館司書に特別支援学級の生徒の実態を伝えて選書してもらった。学校図書館司書は生徒Aに「ナイチンゲール」や「ガンジー」「スティーブ・ジョブズ」の伝記を用意した。生徒Aは嬉しそうにこれらの本を手に入る様子が見られた。学校図書館司書に要望を伝えれば色々な本を用意してくれることを生徒たちに伝えると、生徒Aはそれ以降、毎週のように休み時間に図書館へ行き、学校図書館司書と本について「僕は今これが好き。」「今度はあの本を用意してください。」と話すようになった。

また、保護者から「生徒の幼少期に読み聞かせをした思い出のある絵本」を聞き取る「読み聞かせ本のアンケート」を実施した。生徒Aの保護者は、【資料2】のようにアンケートに記入した。その中の「やさしいライオン」を学級文庫に配架すると、生徒Aは懐かしそうに本を手に取り、ページをめくる姿が見られた。生徒Aからは、「久しぶりに絵本を読んできたけど、小さい頃に戻ったみたい楽しかったです」といった感想があった。その後、生徒Aは伝記以外にも、学級文庫から絵本を手に入るようになった。

【読み聞かせ本のアンケート】

保護者氏名: _____

読み聞かせの年代に○をつけてください。	本のタイトル	※筆者	※おすすめのポイント
<input type="checkbox"/> 幼少期 <input checked="" type="checkbox"/> 小学校低学年 <input type="checkbox"/> 小学校中学年	ざくろ! ショベルカー!	竹下 文子	文中、小ジョベルカーがいろいろな場所で活躍
<input type="checkbox"/> 幼少期 <input checked="" type="checkbox"/> 小学校低学年 <input type="checkbox"/> 小学校中学年	やさしいライオン	ぞうじ たかし	お話を聴く気持ちが良いので涙が出る
<input type="checkbox"/> 幼少期 <input checked="" type="checkbox"/> 小学校低学年 <input type="checkbox"/> 小学校中学年	だ・い・じゅう・だ・い・じゅう	いとう ひろし	「おじいちゃん」と「ぼくの心臓の調子」

※覚えていない範囲で、可能な限りで構いませんので、ご記入いただけますと大変ありがたいです。よろしくお願いたします。

【資料2】

また、アンケートを配付した際には、児童向けの本を読むことに抵抗を示した生徒もいたが、実際に本を目にすると童心に戻って楽しむ様子がたくさん見られた。アンケートの内容について（昔読んだ本を覚えているか覚えていないかなど）、家庭で保護者と会話をした生徒もいた。

その後、再度ショートショートの中軸となる不思議な言葉づくりを行ったところ、生徒Aは「Appleの始まり」「まほうのスケッチブック」という言葉を考えた。どこからこの言葉を思い付いたのかを尋ねると、生徒Aは、「スティーブ・ジョブズの伝記と、『キャベツくん』という絵本を読んで思い付きました」と答えた。最初に考えた言葉に全て入っていた「戦争」という単語は無くなり、伝記や絵本を読んだことで生徒Aが新たな語彙を獲得したことがわかった。

(2) 意図的な選書をした読み聞かせ(手立て②)

ショートショートづくりの次のステップとして、つくった不思議な言葉を軸として物語の設定や起承転結を考えた。生徒 A は、「Apple の始まり」という言葉を軸として、主人公は「スティーブ・ジョブズ」、他の登場人物は「りんごの建物の店員」、「アメリカで 1976 年に起きた話」という設定を考えた。起承転結は【資料 3】のように考えた。「転」で突然りんごがペラペラになっているところや、「結」でそのりんごを投げたら近未来化したりりんごの建物が建っているところを見ると、生徒 A は以前に比べて柔軟な発想で物語を考えることができていると言える。だが、自由な発想がゆえに今度は起承転結のつながりが弱くなったように見受けられる。特にりんごがペラペラになって、それを投げたら建物が建つというのは突拍子がなく、文章で豊かに表現することができているショートショートと言えるかは判断に迷った。

②起承転結を考えよう

起 (はじまり)	食料不足のステーブジョブズが店を倒架しまった。
↓ それから?	
承 (どうなった)	けんの店を見つけてその店のりんごがとても安く調子に乗ってたくさん買ってしまった。
↓ それから?	
転 (事件)	買ったりんごを食すだけ朝日をわがえたときりんごがペラペラになった。
↓ それから?	
結 (おわり)	ペラペラのりんごを投げたら新緑がはじまりりんごの建物が建つそれりんごの名付け会社も発展させていた。

※登場人物のセリフや主人公の心の中を入れたり、情景や仕草を表現したりすることで、物語はどんどんふくらんでいきます。

【資料 3】

そこで今度は、起承転結の分かりやすい絵本を選書して学校図書館司書による読み聞かせを行った【写真 2】。それにより物語の起承転結のつながりに関心をもち、より豊かに表現したショートショートづくりを行えることを期待した。生徒たちは読み聞かせが始まると静かに本に注目し、本の展開に合わせて笑ったり声を上げて驚いたり、素直に楽しむ姿が見られた。また、読み聞かせをしながら、その本の起承転結がどのようなになっているのかをメモするように指示を出した。「ぼく そらをさわってみたいんだ」「やさしいライオン」「くろねこ ちゃこのぼうけん」の 3 冊を読み聞かせし、それぞれ起承転結を確認したところ、生徒 A は 3 冊とも正しく起承転結を捉えることができた。その日の振り返りで、面白いショートショートを書くためには「起承転結をはっきりさせて、実際にはないようなことを書いたりするとよい」と書いた【資料 4】。



【写真 2】

★おもしろいショートショートを書くためには、どのようなことを工夫したり、どのようなことに気を付けたりするとよいですか？

起承転結をはっきりさせて実際にはないようなことを書いたりするとよい。

【資料 4】

その後、生徒 A は、「まほうのスケッチブック」という言葉を使ってショートショートづくりを始めた。主人公は「レート」、他の登場人物は「ネコガタ・ドーラ・エモン」、「2124 年の東京で起こった話」

という設定を考えた。起承転結は【資料5】のように考えた。「起」の状況説明がより詳しく丁寧になり、『説明書を読んでから使ってください。』と言われたがレートは従わなかった。」という記述がその後の展開の伏線にもなっており、話のつながりを十分に意識することができるようになったと言える。また、「転」で本物のピラミッドが建ってしまった理由が、「鉛筆の芯が折れてダイヤモンドが正しく描けなかったから」という整合性のあるものになっている。ショートショートらしい不思議な展開でありながら、その展開に読み手が納得できるような理由が分かりやすく書かれていることから、生徒Aが最初に書いた作品よりも想像したことを文章で豊かに表現している作品だと言えるであろう。

(3) 読書の木づくりの実施 (手立て③)

蓄積した読書体験を視覚化して、充実感や達成感がより得られるように「読書の木づくり」

を行った。読んだ本のどこが面白かったのか、読んでどのような気持ちになったのかを葉っぱの形をしたカードに書き、大きな木のイラストが描かれた拡大用紙の好きなところに全員で貼った【資料6】。葉っぱカードの色は生徒が好きな色を用意した。生徒Aは緑色を選んだ。また、自分の気持ちや考えたことをより豊かな語彙で書けるように「語彙一覧表」を用意した。語彙一覧表の中には、例えば「喜び」

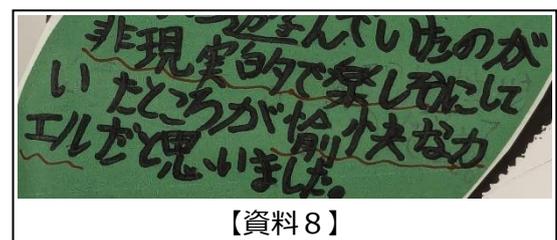
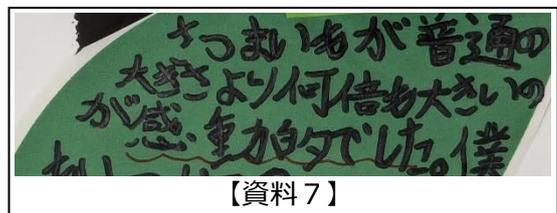
の気持ちを表す言葉として「ワクワク」「幸せ」「愉快」「高ぶる」「満足」など、複数の語句が書かれている。生徒には、その中から自分が使ったことのない言葉を選んで書くように伝えた。生徒Aは最初、読んだ本の感想として、「楽しかった」「面白い」などの簡単な言葉でしか書いていなかったが、語彙一覧表の言葉を使って書くように伝えると、「感動的でした【資料7】」「愉快的カエルだと思いました【資料8】」などの言葉を選んで書いた。さらに、語彙一覧表には無い言葉だが、「想像できないくらい面白

②起承転結を考えよう

起 (はじめ)	2024年、レートという男性が散歩をしていたとき、友人の店を見つけた気がなっていた。すると、まよひのスケッチボードがあり、これを買った。しかし、鉛筆の芯が折れて、ダイヤモンドが正しく描けなかった。そのため、本物のピラミッドが建ってしまった。
承 (どうなった)	まよひのスケッチボードとはどういうものなのか、気がななて、試しに鉛筆を書いたところ、本物が写った。
転 (事件)	スケッチボードにダイヤモンドを書き直したところ、鉛筆の芯が折れて、ピラミッドがえがかれて本物のピラミッドが建ってしまった。
結 (おわり)	このスケッチボードは一度失敗すると大事になるということを知って以降、レートはこのスケッチボードを使うことはなくなった。

※登場人物のセリフや主人公の心の声を入れたり、情景や仕草を表現したりすることで、物語はどんどんふくらんでいきます。

【資料5】

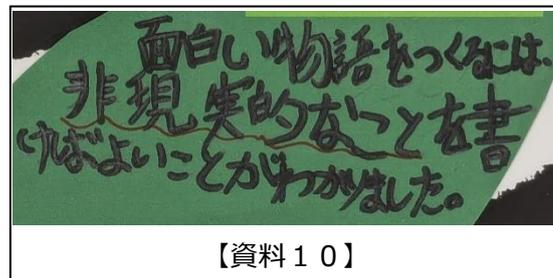


いと感じました【資料9】」と比喻表現を使って面白さを表すことができた。生徒Aは語彙一覧表を使う活動を通して、新しい語彙を獲得したり、主体的に言語感覚を磨いたりすることができたと言える。

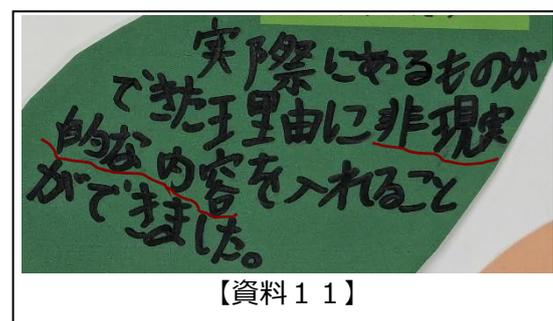


【資料9】

また、葉っぱカードは授業の振り返りを記入するものとしても活用した。級友が書いたショートショートを読んだ日の振り返りとして、生徒Aは「ショートショートは、実際にはないジョークな内容を書いたら面白くなることがわかりました。」と記入した。また、別の日には「面白い物語をつくるには、非現実的なことを書けばよいことがわかりました。」と書いた【資料10】。その後、ショートショートを書く際に、生徒Aは「この前、どんな振り返りを書いたっけなあ」と言いながら読書の木を見返して、「そうだそうだ、ありえないようなことを書いたらいいんだ」とつぶやいて書き始めた。そして、その日の振り返りには「実際にあるものができた理由に非現実的な内容を入れることができました。」と書いた【資料11】。こ



【資料10】



【資料11】

これらのことから、読書の木づくりに取り組み、それをショートショートづくりに活用することは、生徒Aが想像したことを文章で豊かに表現するために有効であったと考える。

また、授業が進むごとに木に貼られる葉っぱが増えていく様子を見ていた生徒たちは「最初はただの枯れ木だったけど、ちゃんとした木になったなあ」としみじみ言ったり、「落ち葉になっている人がいるよ。僕はちゃんと上のほうに貼ったよ」と笑ったりして、楽しみながら取り組む様子が見られた。

6 成果と課題

手立て①では、学級文庫に並べる本を生徒自身が選んだり、学校図書館司書による選書を行ったりすることで、主体的に読書に親しみながら、新たな語彙を獲得することができた。さらに、保護者からアンケートによる聞き取りをすることで、幼少期の思い出を想起させ、童心に返って読書を楽しむ生徒の様子が見られた。手立て②では、起承転結の分かりやすい本を繰り返し読み聞かせすることで、起承転結を意識して、想像したことを文章で豊かに表現することができた。手立て③では、語彙一覧表を活用することで、生徒が新しい語彙を獲得し、言語感覚を磨くことができた。また、「読書の木」を授業の振り返りやショートショートづくりに活用することで、想像したことを文章で豊かに表現することができるようになった。

ただ、今回の実践では読書や読み聞かせを行うために、朝読書や国語科の授業時間を活用したが、年間を通してこのような取組をすることは難しい場合がある。読書を習慣化するためには、学校生活の中でどこに読書の時間を確保するかが課題だと感じた。